保育士、母校に帰る。

～日本女子体育大学編～

〝共に生き、共に育つ〟
その理念を掲げる社会福祉法人なごみ福祉会で
子どもの気持ちに寄り添う保育士として
活躍中の大塩さんと湯川さん。
日本女子体育大学での学びを糧に
保育士道を邁進する2人の卒業生が
恩師・森田教授の元を訪れた。
対談から見えた
在学時から今へつながる軌跡とは。

――本日は、日本女子体育大学の森田教授と同大学卒業生の湯川さん、大塩さんにお越しいただきました。何年ぶりの再会ですか？

【大塩さん】私は5年ぶりです。

【湯川さん】私は卒業後1度訪れたので、3年ぶりですね。

【森田教授】もう、そんなに経っているんですね！

【湯川さん】なんだか、久しぶりという感じがしません（笑）

【大塩さん】私もそう感じました（笑）日本女子体育大学は先生方と学生の距離が近い大学なのですが、その中でも森田先生は、学生と近い距離で接してくださる先生。今も、当時と同じように温かくて…。だから数年ぶりという感覚がないのかもしれません。

【森田教授】卒業後もＬＩＮＥなどで連絡を取り合っていますしね。今日は、頑張っている姿が見られて嬉しいです。

――お2人はどんな学生でしたか？

【森田教授】真面目で、しっかり学んでくれる学生でした。実は2人は、学生の中でも特に関わりの濃かった2人なんです。1年生でクラス担任として関わり、その後、ゼミ生として3～4年生も担当。4年間のうち3年間、担任として一緒に過ごしましたね。

【大塩さん】森田ゼミは激戦でしたよね。

【湯川さん】そうそう！抽選結果をドキドキ待っていました。

――お2人の思い出の場所は森田研究室ということですが…

【湯川さん】そうですね！森田研究室は、1番思い出が詰まっている場所です。

【大塩さん】毎日と言ってもいいくらい頻繁に訪れていました（笑）卒論が進まずスランプの時は、森田先生と雑談したり…。

【森田教授】そうそう！懐かしいね。卒論もそうですが、やるべきことが上手くいかない時は、急かさずに見守ることも大事だと考えています。なので、そんな時には他愛ないおしゃべりをしたり、一緒にお菓子を食べたりしていました。すると不思議なもので、パワーを貯めたら、自分のタイミングで、やるべきことに向けてまた進みだすものなんです。2人も、自分のタイミングで、しっかりスパートをかけて卒論を仕上げていました。大塩さんはダンスの経験から、身体表現を取り上げていましたよね。

【大塩さん】すごい。覚えてくださっているんですね。

【森田教授】もちろん！湯川さんは、運動習慣と食習慣。実習での気づきから発

日本女子体育大学 卒業
2017年4月 入職
湯川 華子
Yukawa Hanako

たまご組（0歳児）担当。柔らかい雰囲気で周囲を笑顔にする先輩保育士。幼稚園児の頃に好きだった先生への憧れと、高校時代に野球部マネージャーとして経験した支える喜びから保育者を志す。

日本女子体育大学 体育学部
子ども運動学科 学科長
森田 陽子
Morita Yoko

聖徳大学大学院博士前期課程（児童学）修了。日本幼児体育学会常任理事。国際幼児体育学会理事。NHKEテレ「いないいないばあっ!」の体操「ピカピカブ～!」の監修を務める。

日本女子体育大学 卒業
2017年4月 入職
大塩 沙絵
Oshio Sae

くじら組（5歳児）担当。幼稚園児の頃から弟の世話が好きだった沙絵先生。小学生の頃から保育士になりたいという気持ちが固まり、夢を追って叶えた一途な努力家。

成長差や個性に焦らず、一人ひとりを見守り待つ、なごみ福祉会の保育を実践中の2人。「子どもが主体的に遊び、行動する時の目の輝きが大好き!」とのこと。(左)湯川さんのお話に登場した菅原園長と。菅原園長も日本女子体育大学の卒業生だ。

社会福祉法人
なごみ福祉会

社会福祉法人なごみ福祉会

<お問合せ>
神奈川県川崎市多摩区菅稲田堤3-9-2(保育部 本部)
☎044-944-2022
設立:1981年3月

川崎市・世田谷区で認可保育園6園と障害福祉事業を展開。"共に生き、共に育つ"という理念のもと、一人ひとりの個性や発達に合わせた子ども中心の保育を実践。ゆとりある職員配置(全クラス・正規職員2名以上の複数担任制)、手厚い待遇面で新人も安心の職場。

求人情報はこちら

オンライン 園見学
オンライン 説明会
オンライン 相談会

日本女子体育大学

JWCPE 日本女子体育大学

<お問合せ>
東京都世田谷区北烏山8-19-1
☎03-3300-2258(代表)
設立:1922年4月

二階堂トクヨ先生が女子体育の指導者養成の為の全人教育を実践すべく創設した二階堂体操塾が前身。建学の精神である「体育を中軸に据えた全人教育」という志のもと「つよく　優しく　美しく」をモットーに教養高き社会人を養成し続け、教育・保育従事者を輩出し続けている伝統校。

HPはこちら

展させていましたね。

【湯川さん】 そうです!もともと運動に興味があったのですが、保育実習で、食などの生活習慣が運動にも育ちにも大切だなという気づきがあって。実習と卒論を通して、食育への興味が強まりました。卒論を通して明確になった保育への想いは就職活動にもつながっていて…。今、働いているなごみ福祉会は食育活動に力を入れているんです。毎日の給食も国産食材を使った手作り給食で、日々の保育園生活の中に、食育につながる瞬間がたくさんあります。

【森田教授】 そうだったんですね。就職活動の時は2人ともすごく悩んで、キャリアセンターの悟道さんとも何度も相談していましたね。

【湯川さん】 悟道さんにも、本当にお世話になりました。様々な園を見比べながら何度も何度も相談に乗ってもらって。そんな中で友人に教えてもらったのが、なごみ福祉会。興味が湧いて園見学を申し込む電話を掛けた際に、たまたま出てくださったのが日本女子体育大学卒の菅原先生でした。菅原先生の気さくな人柄に加えて同じ大学出身という安心感があり、「これはご縁かも」と。

【森田教授】 その園見学で就職を決めたのでしたっけ?

【湯川さん】 そうです!子どもたちや先生たちの雰囲気を見て「温かくて素敵な園だな」と。日本女子体育大学の先輩がいる心強さもありました。それから、先ほどお話しした食育に惹かれたのもありますね。

【森田教授】 その後、大塩さんも、なごみ保育園への就職を考えていると聞いて「同じ園?」と驚きました(笑)

【大塩さん】 すごく驚いていましたよね(笑)。私は10園以上の園見学に行ったのですが、どの園もそれぞれに魅力があり迷いに迷っていました。そんな時に出会ったのが、なごみ福祉会。大きなツリーハウスがある広々とした園庭、開放的な園舎、そして温かい雰囲気に惹かれて「ここに就職しよう」と決めました。

【森田教授】 悩みぬいた末に決めた園で5年経った今も頑張っているってすごいよね。感慨深いです。

——就職活動の際にも丁寧なサポートがあったのですね。

【大塩さん】 本当に、たくさんの先生方に支えてもらいました。

【湯川さん】(深くうなずく)

——今、活きている学生時代の学びはありますか?

【湯川さん】 私は、森田先生に勧めてもらった小学生引率キャンプでの経験が心に残っています。実は、そのキャンプで、今も心にある〝子どもの主体性を大切にしたい〟という想いが生まれたんです。

【森田教授】 どんな経験だったのですか?

【湯川さん】 キャンプ中、私たち引率の大人が「〜しましょう」「〜しないとね」と指示を出して先導しても、子どもたちがなかなか意欲を見せてくれなくて。どうしたら良いのかな、と思っていたんですが…子どもたちが自分たちで「〜しよう」と主体的に動き始めると、様子が一変。意欲的に、楽しそうに準備をしたり、遊んだりするように!その変化が今でも心に残っているんです。「主体的に動くと、子どもってこんなにも楽しそうに、目をキラキラさせるんだな」と気づき、「こんな風にキラキラした子どもの姿を大切にしたい。子どもの主体性を大切にしましょう」という想いが生まれました。

【湯川さん】 悟道さんにも、本当にお世話になりました。様々な園を見比べながら何度も何度も相談に乗ってもらって。そんな中で友人に教えてもらったのが、なごみ福祉会。興味が湧いて園見学を申し込む電話を掛けた際に、たまたま出てくださったのが日本女子体育大学卒の菅原先生でした。菅原先生の気さくな人柄に加えて同じ大学出身という安心感があり、「これはご縁かも」と。

【森田教授】 その園見学で就職を決めたのでしたっけ?

【湯川さん】 そうです!子どもたちや先生たちの雰囲気を見て「温かくて素敵な園だな」と。日本女子体育大学の先輩がいる心強さもありました。それから、先ほどお話しした食育に惹かれたのもありますね。

【森田教授】 その後、大塩さんも、なごみ保育園への就職を考えていると聞いて「同じ園?」と驚きました(笑)

【大塩さん】 すごく驚いていましたよね(笑)。私は10園以上の園見学に行ったのですが、どの園もそれぞれに魅力があり迷いに迷っていました。そんな時に出会ったのが、なごみ福祉会。大きなツリーハウスがある広々とした園庭、開放的な園舎、そして温かい雰囲気に惹かれて「ここに就職しよう」と決めました。

【森田教授】 悩みぬいた末に決めた園で5年経った今も頑張っているってすごいよね。感慨深いです。

——就職活動の際にも丁寧なサポートがあったのですね。

【大塩さん】 本当に、たくさんの先生方に支えてもらいました。

【湯川さん】(深くうなずく)

——今、活きている学生時代の学びはありますか?

【湯川さん】 私は、森田先生に勧めてもらった小学生引率キャンプでの経験が心に残っています。実は、そのキャンプで、今も心にある〝子どもの主体性を大切にしたい〟という想いが生まれたんです。

【森田教授】 どんな経験だったのですか?

【湯川さん】 キャンプ中、私たち引率の大人が「〜しましょう」「〜しないとね」と指示を出して先導しても、子どもたちがなかなか意欲を見せてくれなくて。どうしたら良いのかな、と思っていたんですが…子どもたちが自分たちで「〜しよう」と主体的に動き始めると、様子が一変。意欲的に、楽しそうに準備をしたり、遊んだりするように!その変化が今でも心に残っているんです。「主体的に動くと、子どもってこんなにも楽しそうに、目をキラキラさせるんだな」と気づき、「こんな風にキラキラした子どもの姿を大切にしたい。子どもの主体性を大切にしましょう」という想いが生まれました。

【森田教授】 学生時代の経験が活きているのなら、こんなに嬉しいことはないですね。何事にも挑戦できるのは学生の特権。そう考え、学生にたくさんの挑戦できる機会を提供したいと考えていて、授業で様々な経験ができるよう準備したり、学外イベントも積極的に勧めたりと、選択肢の提示ができるよう心がけています。挑戦をすれば失敗も多いと思いますが、失敗しても周りがフォローしてくれますし、失敗の経験も未来の糧になる。周囲が助けてくれる貴重な時期に、多様な挑戦をして失敗と成功を積み重ねることが将来を助けるのではないか、と。そう考えて学生と接してきたので、2人が学生時代の経験を活かしてくれていることがとても嬉しいです。

——最後に、森田先生からメッセージはありますか?

【森田教授】 今日は、成長した2人に会えてとても嬉しかったです!2人は、きっと〝子どもを待てる〟タイプ。子どもたちの気持ちや意欲が生まれるのを待ちながら、子どもと一緒に成長していける保育士になれる素敵な人柄の持ち主。その個性を活かして、今後も子どもたちと一緒に飛躍していってほしいと願っています。頑張りすぎず、自分自身も大切にすることも忘れないで。悩んだ時、相談したい時は、いつでも母校に、この研究室(ゼミ)に帰ってきてね。子どもと関わることで嬉しかったこと、楽しかったことも、もちろん報告してほしい。子どもたちの心とからだの健やかな育ちを一緒に応援しましょう。自分も子どもたちも幸せになれるよう頑張ってください。

【大塩さん・湯川さん】 ありがとうございます!

森田研究室
在学中、2人が1番多くの時間を過ごした研究室は思い出の詰まった場所。「アルバムやクラT、懐かしい!」と話が弾んだ。

教室
2人が1年生の頃にガイダンス等で使っていた教室は、森田教授と出会った場所。「いつも、この辺の席だったよね」と森田教授。

体育館でリトミック
運動が好きだという2人。「どうやるんだっけ?」学生時代を思い出し、森田教授の太鼓に合わせて身体を動かした。

ピアノ実習室
「ピアノが得意だったのは湯川さん!」と大塩さんと森田教授に促され、湯川さんが照れながら久しぶりに腕前を披露してくれた。